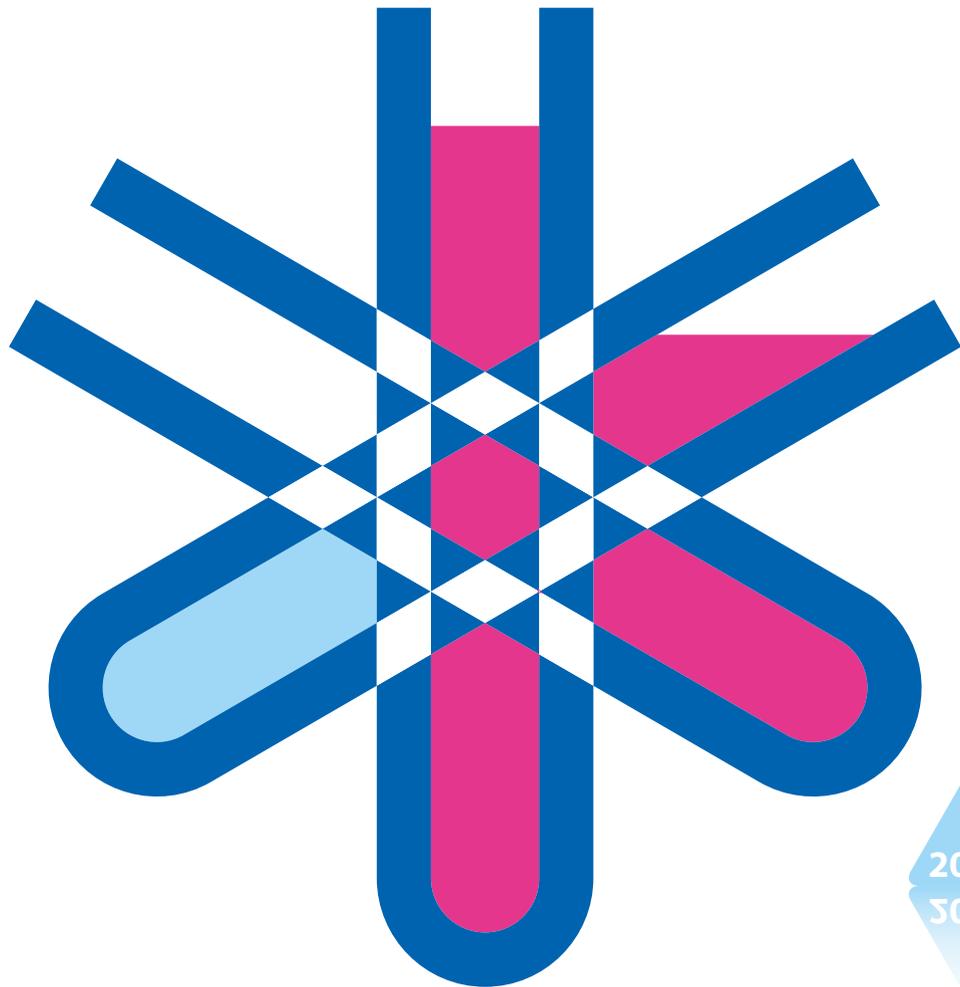


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和7年1月号 目次

【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和6年5月～10月）	1
魚介類中のPCB検査結果（令和6年度）	4
農産物の残留農薬検査結果（令和6年10～11月）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年12月）	7
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年12月）	8
-----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和6年5月～10月）

当所では、横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります（表1）。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

令和6年の蚊成虫捕獲調査は、市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法と、ヤブカ属の捕獲を目的とした人^{ひと}囿法による調査を行いました。ライトトラップ法は、ドライアイス^{ひと}を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ（CDC型：写真1）をリスク地点5公園、モニタリング地点17公園の合計22公園に設置しました。また、捕虫網を用いた人^{ひと}囿法は、リスク地点の山下公園で行いました（図1、表2）。調査は、各区福祉保健センター生活衛生課、委託業者、衛生研究所が行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス）及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	主な感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト



図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点	
鶴見	入船公園(A)	南	蒔田の森公園(I)	青葉	桜台公園(Q)	
神奈川	三ツ沢公園(B)	港南	久良岐公園(J)	都筑	都筑中央公園(R)	
西	掃部山公園(C)	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園(K)	戸塚	舞岡公園(S)	
	臨港パーク(D) ◆		旭		今川公園(L)	栄
中	山下公園(E) ◆*	磯子	坪呑公園(M)	泉	泉中央公園(U)	
	横浜公園(F) ◆	金沢	海の公園(N)		瀬谷	瀬谷市民の森(V)
	港の見える丘公園(G) ◆	港北	新横浜駅前公園(O) ◆		無:モニタリング地点(各8~10回) ◆:リスク地点(各12回)	
シンボルタワー(H)	緑	北八朔公園(P)				

*:ライトトラップ法と人囿法を実施

〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査を22公園で延べ198回実施し、結果を表3に示しました。各公園の調査は、リスク地点5公園が各12回、モニタリング地点のシンボルタワーは10回、他の16公園は各8回実施しました。捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種11,702個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ9,330個体(79.7%)でした(写真2)。次いで、アカイエカ群が1,325個体(11.3%)、カラツイエカが514個体(4.4%)、キンパラナガハシカが152個体(1.3%)、ヤマトヤブカが148個体(1.3%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(22公園:延べ198回)

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*	1,299	26	1,325	(11.3)
	コガタアカイエカ	124	1	125	(1.1)
	カラツイエカ	507	7	514	(4.4)
	クシヒゲカ亜属	3	0	3	
カクイエカ属	トラフカクイエカ	10	0	10	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	7,831	1,499	9,330	(79.7)
	ヤマトヤブカ	142	6	148	(1.3)
	コガタキンイロヤブカ	3	0	3	
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	36	0	36	
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	138	14	152	(1.3)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	46	0	46	
チビカ属	フタクロホシチビカ	4	1	5	
	不明(破損を含む)	4	1	5	
合計		10,147	1,555	11,702	(100.0)



写真1 CDC型ライトトラップ



写真2 ヒトスジシマカ雌成虫

*:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、北八朔公園(緑区)の2,400個体で、次いで、海の公園(金沢区)が1,474個体、新横浜駅前公園(港北区)が1,136個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、北八朔公園で1,963個体と最も多く、次いで海の公園が1,344個体でした。アカイエカ群は、臨港パーク(西区)とシンボルタワー(中区)で各200個体と最も多く捕獲されました。コガタアカイエカは、シンボルタワーで74個体と最も多く捕獲されました。

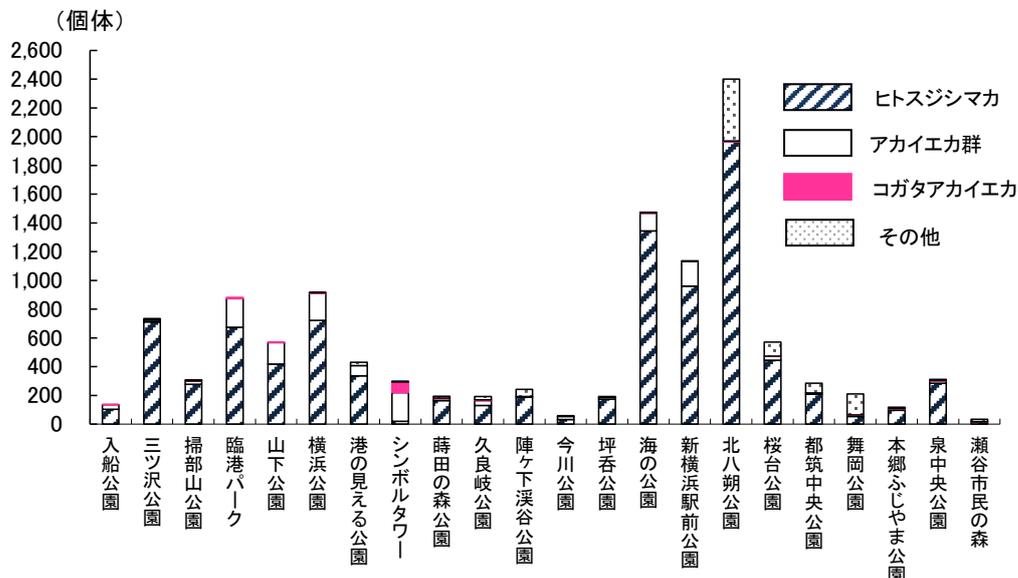


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり
〈人 囷 法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査:山下公園〉

山下公園の3定点において(図3)、人 囷 法(写真3)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ36回)行いました。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が45個体、雄成虫が4個体、合計49個体でした。



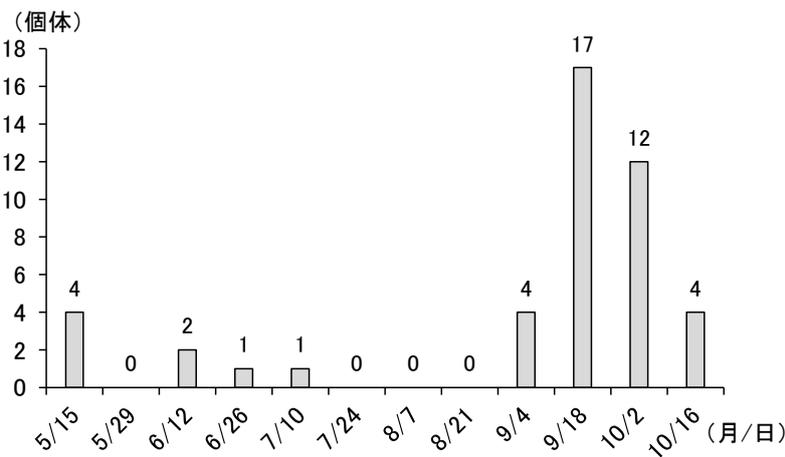
【山下公園】①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地

ひとひとり
図3 人 囷 法の調査定点

ひとひとり
〈人 囷 法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長:山下公園〉

ひとひとり
人 囷 法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、初回の5月15日に4個体捕獲され、8月21日までは0~2個体と少数でした。9月18日には17個体と増加し、10月2日は12個体、最終回の10月16日は4個体でした。



ひとひとり
図4 人 囷 法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長(山下公園)



ひとひとり
写真3 人 囷 法

〈ウイルス検査〉

ひとひとり
ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫10,147個体、人 囷 法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫45個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ:感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō-fukushi/eiken/kansen-center/byogentai/infoc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

魚介類中のPCB検査結果（令和6年度）

PCBは生態系の食物連鎖を通じて魚介類に蓄積され、これを食べることによる健康への影響が懸念されています。厚生労働省では、PCBについて暫定的規制値を設定し、食品への汚染を防止し、かつ低下させるための行政上の指標としています。

当所では横浜市内に流通する魚介類についてPCBの検査を行っています。令和6年6月及び10月に中央卸売市場本場で収去した魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検体で不検出でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	スルメイカ	1	0	不検出	0.5ppm
	マサバ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類	アイナメ	1	0	不検出	3ppm
	ウスメバル	1	0	不検出	
	サワラ	1	0	不検出	
	シログチ	1	0	不検出	
	チダイ	1	0	不検出	
	マダイ	2	0	不検出	
	メダイ	1	0	不検出	
計	10	0			

(検出限界:0.01ppm)

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和6年10～11月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁*は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和6年10～11月に医療局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

市内産農産物については、10月になす6検体、かんしょ(さつまいも)4検体、さといも及びだいこんの根各1検体の計12検体、11月にかき、かんしょ、キャベツ及びだいこんの根各2検体、かぶの根、カリフラワー、こまつな及びなす各1検体の計12検体、合計で24検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。なす2検体、かき、こまつな及びさといも各1検体から延べ7項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

* 令和6年4月1日に、食品衛生基準行政は厚生労働省から消費者庁に移管されました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果 (令和6年10～11月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
かき	2	1	アゾキシストロビン ジノテフラン	0.01	1
				0.09	2
かぶの根	1	0			
カリフラワー	1	0			
かんしょ(さつまいも)	6	0			
キャベツ	2	0			
こまつな	1	1	メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	1
さといも	1	1	イミダクロプリド	0.02	0.4
だいこんの根	3	0			
なす	7	2	ブプロフェジン ボスカリド クロルフェナピル	0.03	1
				0.08	3
				0.02	1

注) 中括弧()は同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○	—	○	—	○	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	○	エトフェンブロックス	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	—	○	エンドリン	0.005	○	—	—	—	—
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	—	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	—	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	クロマフェンジド	0.01	○	○	○	○	○

表2 (続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	フルシトリン	0.01	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○
チアクロブリド	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
チアトキサム	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシ種を含む)	0.005	○	—	○	—	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ベンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	—	○
トリフロキシストロピン	0.01	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	—	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	メラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	—	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	○	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○							

農産物の種類 A:こまつな B:かぶの根、カリフラワー、キャベツ、なす C:かんしょ(さつまいも)、さといも
D:だいこんの根 E:かき

○:実施、—:実施せず

* DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年12月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年12月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和6年12月に追加・更新した主な記事は、7件でした。

掲載月日	内容
12月5日	横浜市インフルエンザ流行情報6号 伝染性紅斑流行情報(2024年12月5日)
12月12日	横浜市インフルエンザ流行情報7号
12月13日	感染症に気をつけよう(12月号)
12月19日	横浜市インフルエンザ流行情報8号
12月23日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
12月26日	横浜市インフルエンザ流行情報9号

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード 感染症

<https://iryodashboard.city.yokohama.lg.jp/infectious/>

インフルエンザ流行情報(2024/2025)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryofukushi/kenko-iryoeiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2024.html>

伝染性紅斑流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryofukushi/kenko-iryoeiken/kansen-center/rinji/erythema-infectiosum.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryofukushi/kenko-iryoeiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryofukushi/kenko-iryoeiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年12月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行警報が発令されました。重症例の報告も増加しています。咳エチケットや手洗い、換気、適切な湿度を保つように心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症が増加傾向です。感染・発症予防、重症化予防のために、予防接種も有効です。
- 百日咳の報告が増加しています。マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 感染性胃腸炎の報告も増加傾向です。トイレ後、食事の前の手洗いは入念に行いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年11月23日～12月22日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	30件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件	百日咳	24件

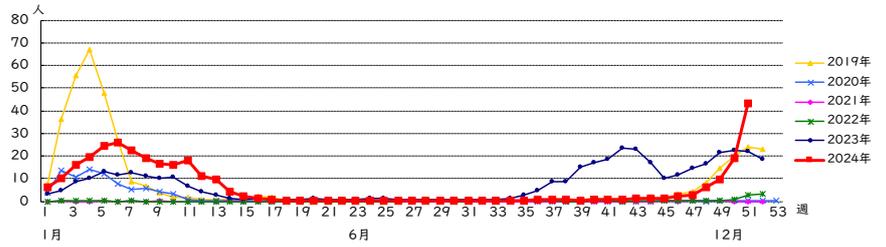
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～30歳代で、O血清群はO157が2件、不明が2件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **A型肝炎**:30歳代(ワクチン接種歴無)で、海外での経口感染と推定されています。
3. **レジオネラ症**:肺炎型で、60歳代、感染経路は水系感染と推定されています。
4. **アメーバ赤痢**:60歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
5. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:80歳代及び90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、医療器具関連感染と推定される報告が1件です。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代及び60歳代で、感染経路はいずれも性的接触(同性間1件、異性間1件)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60歳代及び80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回2件、無4件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
9. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間22件、同性間3件、詳細不明2件)、感染経路等不明が3件です。
10. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回6件、3回1件、無2件、不明15件)で、家族内感染と推定される報告が3件、周囲の流行と推定される報告が5件、感染経路等不明の報告が16件です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第48週	11月25日～12月1日
第49週	12月2日～12月8日
第50週	12月9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

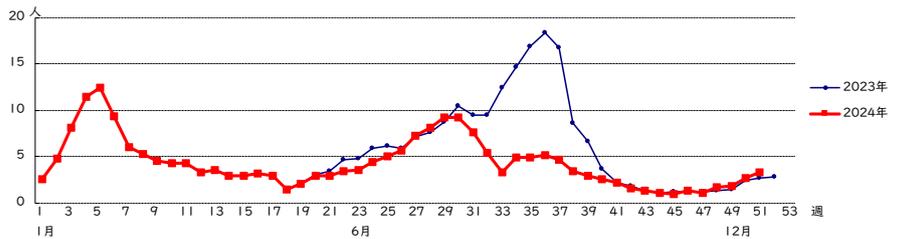
1 インフルエンザ

2024年10月下旬(第43週)に流行期に入りました。12月中旬(第50週)には流行注意報の発令基準(10.00)を上回り、第51週には43.15と、流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。詳しくは横浜市インフルエンザ流行情報9号をご覧ください。



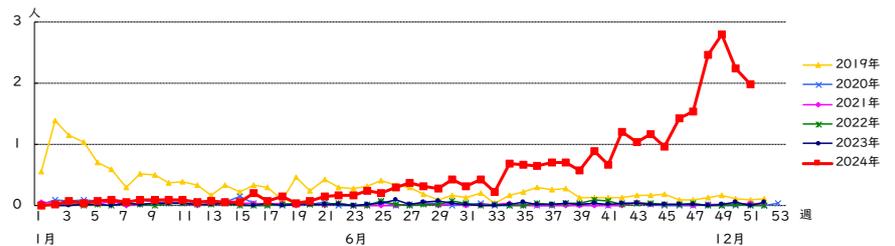
2 新型コロナウイルス感染症

2024年1月下旬(第5週)に1回目(12.45)、7月中旬(第29週)に2回目(9.15)のピークを迎え、減少後は横ばいの状態が続いていましたが、11月下旬(第48週)以降増加に転じています。第51週は3.33です



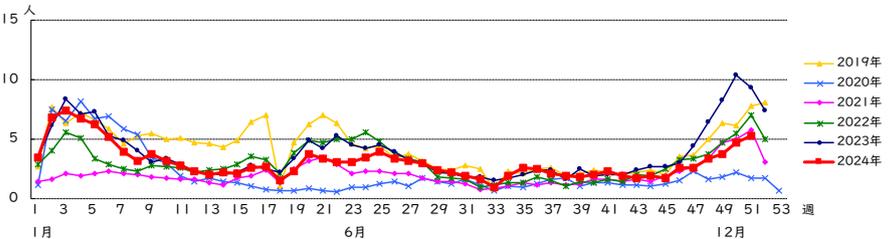
3 伝染性紅斑

2024年5月中旬(第20週)以降増加傾向となり、例年よりも多い状態で推移しました。11月下旬(第48週)に流行警報発令基準値(2.00)を上回りました。12月上旬にピークを迎え、以降減少傾向です。第51週は1.98です。



4 感染性胃腸炎

2024年11月中旬(第46週)以降増加傾向に転じています。第51週は5.21です。



5 性感染症(2024年11月)

性器クラミジア感染症	男性:34件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	4.25	3.00	2.50	1.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

2024年第48週～第51週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点36件、インフルエンザ(内科)定点12件、基幹(病院)定点1件でした。

1月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離27株と遺伝子10件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第48週～第51週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	手足口病	胃腸炎
インフルエンザウイルス AH1型pdm09		1	22		
		-	-		
インフルエンザウイルス AH3型			1		
			-		
新型コロナウイルス			-		
			1		
パラインフルエンザ 3型	-				
	1				
アデノウイルス	-	-			
	1	1			
アデノウイルス 41型					1
					-
ライノウイルス	-	-			
	2	2			
コクサッキーウイルス A16型		-		-	
		1		1	
エンテロウイルス A71型				2	
				-	
合計	-	1	23	2	1
	4	4	1	1	-

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第48週～第51週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、菌血症1件でした。

医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症3件及び咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第48週～第51週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	4	Og109 : H21 VT2 (3) O103 : H2 VT1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) <i>Serratia marcescens</i> (1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (2)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A (1)
	菌血症	1	<i>Elizabethkingia anophelis</i> (1)
医療機関	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> O7群 (1)

小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶連菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (3)
		咽頭炎	1	B群溶血性レンサ球菌 Ia 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】